

平成29年5月8日、長久手市防犯協会役員会が行われました。

冒頭の市長のあいさつを紹介します。

あいさつするきっかけ

私は毎朝、オレンジのあいさつベストを着て、まちを歩いています。ある日、市が洞周辺を歩いていた時に、子どもたちとすれ違いました。いつもは子どもたちから元気よくあいさつをしてくれるのですが、この日は私が「おはよう」とあいさつをしても、あいさつがありませんでした。その後も2, 3組の子どもたちとすれ違いましたが、あいさつをしてくれる子としてくれない子がいました。なぜあいさつをしてくれないのだろうと不思議に思い考えを巡らせると、その日は私がたまたまベストを着ていないことに気が付きました。ベストを着ていない私は、子どもたちから見ると、ただ散歩をしている知らない人なのです。

知らない人にあいさつをするのは勇気がいるし、難しいことです。このあいさつベストは「犯罪が多いからあいさつ運動をしてほしい」と防犯について話し合う会合で提案があり、あいさつ運動をする方法として市職員が話し合っ作りました。しかし、ベストを着るのが恥ずかしいのか、せっかくみんな決めて作っても、着ている人は多くありません。

このベストは、知らない人にあいさつをする勇気がない人の後押しにもなります。あいさつをするきっかけになるのです。

ベストに限らず、どうしたら自分たちがあいさつしやすいか、あいさつを通じてまちの防犯力を上げられるよう、知らない人にあいさつできるようになる方法をみなさんにも市の職員にも考えてほしいと思います。

～市長の話を聞いて～

私は普段あいさつベストを着て仕事をしていますが、朝、仕事に来る時や仕事が終わって帰る時はベストを着ていません。しかし、少しずつですがベストを着ていない時でもベストを着ている時の習慣ですれ違う人にあいさつをするようになりました。まだ少し気恥ずかしくて戸惑ってしまうこともありますが、少しずつ習慣づけてあいさつを交わせるようにしていきたいと思います。

みなさんもしいきなり知らない人にあいさつしようとせず、まずは職場の中や知り合いにあいさつすることから始めてみてはいかがでしょうか。